



TITLE:

資本ノ眞概念ノ發展(一)

AUTHOR(S):

河上, 肇

---

CITATION:

河上, 肇. 資本ノ眞概念ノ發展(一). 經濟論叢 1916, 3(2): 39-52

ISSUE DATE:

1916-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127070>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號二第

卷三第

論說

國防税ノ本質

でがゐつぎ・ひゆーむノ經濟學說(四)

資本ノ眞概念ノ發展(二)

戦後ノ人口増加政策(二)

支那近代ノ戸口ニ就テ(三、完)

在外正貨ト兌換券ト關係ヲ論ズ

雜錄

服部氏ノ批評國際經濟論ニ對スル向井氏ノ批評

瀧本誠一氏ノ草茅危言摘義解題ニ就イテ

福田博士ニ答フ

戦時利得税ノ諸學說及實例

英吉利ノ新税

米國ニ於ケル船舶買収法案ニ就テ

經濟雜誌第五

統計書ノ概說

らがれー『ミール』學說ノ研究(三)

『通俗經濟文庫』ノ刊行

『經濟大辭書』ノ完成

法學博士 神戸 正雄

法學博士 福田 德三

法學博士 河上 肇

文藝博士 米田 庄太郎

法學博士 内藤 虎次郎

法學博士 小川 郷太郎

法學博士 河上 肇

法學博士 鈴木 券太郎

法學博士 本庄 榮治郎

法學博士 神戸 正雄

法學博士 河田 嗣郎

法學博士 岸本 熊太郎

法學博士 田島 錦治

法學博士 財部 靜治

商學士 大塚 金之助

法學博士 福田 德三

法學博士 神戸 正雄

(載 轉 禁)

## 資本ノ眞概念ノ發展 (二)

河 上 肇

目次 (一) Turgot (二) Clark (三) Clark (上) (四) Menger (五) Tuttle

近頃は一々ハ其『利子論』ノ卷頭ニ『利子ナル事實ハ遠イタ々昔カラ理論上及ビ道德上ノ問題トナツタモノデアル』ト云ツタガ、其程ノ問題デアルニ拘ラズ、其利子ヲ生ム所ノ資本ソノモノガ何デアルカト云フコトハ、今ニ至ルモ猶學者間ニ定説ガ無イ。若シ聊カノ誇張ヲ許サルナラバ、古來資本ノ定義ハ殆ド學者ノ數ホド有ルト云ツテモ可イ。併シ余ノ見ル所ニ依レバ、是等ノ定義中、多少ノ程度ニ於イテ資本ノ本質ノ少クトモ一端ニ觸レ居ラザルモノハ殆ド無イ。而シテ今日吾等ノ成シ得ルコトハ、是等ノ諸説ノ長所ヲ綜合シテ資本ノ本體ノ全般ヲ一摺ミニスルコトデアル。乃チ余ハ其趣意ニ本キ、本誌ノ前號ニ『資本ノ概念』ト題スル一論ヲ公ニシ、臆見ニ從ヒ資本ヲ定義シテ『資本トハ浮キ上リ居ル所ノ一般的購買力ヲ有スル剩餘ノ財産ナリ』トナシタ。今本篇ノ目的トスル所ハ、余ガ新タニ立テシ此定義ト從來ノ學者ノ立テタル諸種ノ定義トノ間ニ於ケル異同ヲバ、歴史的且批評的ニ説明セントスルニ在ル。乍併、此仕事ノ爲ニハ非常ニ多クノ紙數ヲ要シ、到底之ヲ本論叢ニ於イテ盡スヲ得ザルガ故ニ、本篇ニ於イテハ己ムナク問題ノ範圍ヲ限定シ、從來ノ學說中比較的余ノ見解ニ近キモノノミヲ選擇シテ之ヲ論評スルニ止メ置クデ有ラウ。

(1) C. G. Hoag, A Theory of Interest, 1914, p. 1.

## 一、て、ゆるごと

扱テ余ハ、浮キ上リ居ル所ノ一般の購買力ヲ有スル剩餘ノ財産ヲ以テ資本ナリト爲スノデアルカラ、余ノ定義ニ從ハバ、資本ナルモノハ財産デアルト云フコトト、剩餘デアルト云フコトト、一般の購買力ヲ有スルト云フコトト、浮キ上リ居ルト云フコトトノ四個ノ特徴ヲ有スルモノデアル。今は等四個ノ特徴ノ中、資本ハ一般の購買力即チ貨幣價值ヲ有スルモノナリト云フコトト、資本ハ剩餘デアルト云フコトト此ノ二個ノ特徴ヲ最モ明瞭ニ捕捉シ得タル最初ノ人ハ、余ノ知ル範圍ニ於イテハ、カノてゆるごと(Turgot)デ有ル。氏ハ曰ク

Quiconque, soit par le revenu de sa terre, soit par les salaires qu'il tire de son travail ou de son industrie, reçoit chaque année plus de valeurs qu'il n'a besoin d'en dépenser, peut mettre en réserve ce *surplus* et l'accumuler: ces *valeurs accumulées* sont ce qu'on appelle un capital..... Il est absolument indifférent que cette somme de valeurs ou ce capital consiste en une masse de métal ou en tout autre chose, puisque l'argent représente toute espèce de valeur, comme toute espèce de valeur représente l'argent.(1)

『何人ニテモ、或ハ土地ノ收入ニ依リ、或ハ勞働又ハ仕事ノ報酬ニ依リ、其者が費消スルノ必要アル以上ニヨリ多クノ價值ヲ毎年々受入ルルナラバ、其剩餘ヲ準備ト爲シ蓄積シ得ルモノナルガ、今其ノ蓄積サレタル價值ハ即チ資本ト稱セラるル所ノモノデアル。此價值ノ總額又ハ資本ナルモノハ、或ハ一定量ノ金屬ヨリ成ルトモ或ハ其他ノ何物ヨリ成ルトモ、其ハ絶對ニ無關係ノコトデアル。何故ト云フニ、貨幣ハ各種ノ價值ヲ代表スルト同時ニ、各種ノ價值ハ又同ジク貨幣ヲ代表スルガ爲デアル。』

(1) Turgot, *Réflexions sur la formation et la distribution des richesses*, (Oeuvres, Paris, 1844, tome premier, p. 37. — Reflections on the Formation and distribution of riches, pp. 50, 51. — Betrachtungen über die Bildung und Verteilung des Reichthums, S. 49, 41.

右ノ一文ニ依レバ、てゆるじハ資本が剩餘デアルト云フコトト、其ガ價值デアルト云フコトヲバ明カニ認識シテ居ル。即チ其點ニ於イテハ余ガ今日主張セントスル所ト全ク同ジデアツテ、余ハ寧ロ、百四十餘年前ニ既ニ斯カル卓見アリシニ驚クホドデアル。乍併、余ガ氏ノ説ヲ其ノマ直チニ承認スルコト能ハザルハ、先キニ引用セシ一文ニモ見ユルガ如ク、『此價值ノ總額又ハ資本ナルモノハ、或ハ一定量ノ金屬ヨリ成ルトモ、或ハ其他ノ何物ヨリ成ルトモ、ソレハ絶對ニ無關係』デアルト爲セシ點デアル。尤モ氏ハ其理由ヲ説明シテ『何故ト云フニ、貨幣ハ各種ノ價值ヲ代表スルト同時ニ、各種ノ價值ハ又同ジク貨幣ヲ代表スルガ爲デアル』ト言ツテ居ルガ、若シ氏ノ意味スルガ如ク、貨幣モ其他ノ貨物モ其融通性ニ於イテ全ク相違ガ無イナラバ、余ハ決シテ氏ノ意見ニ反對スル者デ無イ。乍併、如何セン事實ニ於イテハ、既ニ一旦何物カニ放下サレタル資本ハ必ズ多少ノ程度ニ於イテ其融通性ヲ失フモノデアツテ、其ノ未ダ放下サルルニ至ラザル以前、即チ貨幣又ハ貨幣ノ代用物ヨリ成レル時ニ比ブレバ、大ニ其性質ヲ異ニシテ來ルノデアル。之レ余ガ特ニ『浮キ上リ居ル』ト云フ條件ヲ加へ、資本ハ必ズ浮キ上リ居ル價值ニシテ、其ノ既ニ放下サレテ余ノ所謂交換財以外ノ財ニ具體サルルニ至リタル後ハ、最早資本ト稱スベキモノニ非ズト爲ス所以デアル。

(註) 因ニ言フ。くにーすハ其著『貨幣論』ニ於イテ先キニ掲ゲシテゆるじノ一句ヲ引クノ際、*cas valeurs accumulées* (此ノ蓄積サレタル價值) ヲ譯シテ *diese angehäuften Güter* (此ノ蓄積サレタル財) トシテ居ルガ、之ハ最も大切ナル點ヲ等閑ニ附シテ誤解デアツテ、既ニたつとるノ指摘シタ所デアル。(4)

(2) *Réflexions* ハ 1769年十一月ヨリ 1770年一月ニ亘リテ *Ephémérides* ニ出デタルモノ  
 (3) *Knes, Das Geld*, 2te Aufl., 1855, S. 28.  
 (4) *Tuttle, "The real capital concept", - Quarterly Journal of Economics*, vol. p. 67.

## 二、つらゝゝ (上)

以上述べし如ク、資本ガ剩餘デアリ又價值デアルト云フ考ハ、古クハてゆるびノ風ニ看破シタ所デアルガ、其後斯カル考ハ久シキ間多クノ學者ニ依ツテ殆ド闕却サレタモノデアアル。てゆるびノ前掲論著ハ一七六六年ニ起卿セラレ、其後一七六九年ヨリ一七七〇年ニカケテ公ニサレタモノデアアルガ、其後數年ヲ經テ英國デハあだむ・すみすノ『國富論』ガ出タ。然ルニ氏ハ資本ヲ定義スルニ當リ、其作用ノ一ニ過ギザル『收入ヲ生ズル』ト云フコトヲ以テ之ガ特徴ト爲シ、てゆるびノ舉ゲシ資本ノ特徴ノ中少クトモ其價值性ニ至ツテハ全ク之ヲ論外ニ置キシガ爲メ、爾來資本ト資本財トハ何時シカ全ク同視サルルコトト爲リ、學者ノ説明ハ所謂資本ノ内容ヲ構成スベキ個ノ具體的ノ財ハ何デアルカト云フコトニ集中サレ、資本ノ概念ヲ定ムルニ就イテハ是等具體的ノ財ノ技術的性質ノミガ重ンゼラルルコトト爲ツタ。勿論如何ナル財ヲ資本トシテ數ンベキカニ就イテハ、學者ニ依ツテ種々意見ノ相違ハアルガ、大體ニ於イテ『過去ノ生産物ニシテ將來ノ生産ノ用ニ供ゼラルルモノ』ト云フヤウナ意見ガ比較的多數ヲ占メテ居タ。ソウシテ其ガふじなノ所謂 clumsy eighteenth century concept (愚劣ナル十八世紀の概念)ノ特徴デアアル。所ガ今ヨリ約三十年前コノカタ大分新ラシイ意見ガ有力ナ學者ニ依ツテ唱ヘ出サレ、カクテ久シク埋没シテ居タてゆるびノ考ガ堀リ起サレタト同時ニ、資本ニ對スル吾人ノ概念ハ著シク進歩シテ來タノデアアル。

- (1) Turgot, Reflexion, (English translation, ed. by Ashley), Preface VIII.  
 (2) Fetter, "The 'roundabout-process' in the interest theory", - *Quarterly Journal of Economics*, Vol. XVII. (1903), p. 175.

(註)あたむ・すみすが其『國富論』ニ於イテ論セル所ハ次ノ如シ。

When he (a man) possesses stock sufficient to maintain him for months or years, he naturally endeavours to derive a revenue from the greater part of it, reserving only so much for his immediate consumption as may maintain him till this revenue begins to come in. His whole stock, therefore, is distinguished in to two parts. That part which he expects to afford him this revenue is called his capital. The other is that which supplies his immediate consumption.....<sup>(3)</sup>

即チ『人ノ財本ハ二ノ部分ニ區別サル。』而シテ其所有主ガ自己ニ向ツテ『収入ヲ提供スベシト豫期セル部分ノモノハ即チ其者ノ資本ト名ケラル』ト云フノデアル。所有主ニ向ツテ收入ヲ生ズルト云フコトガ、資本ノ資本タル所以ナリトサレテ居ルノデアル。

今斯カル新氣運ノ最先頭ニ立テル者ハ、余ノ知ル限りニ於イテハ、ころんびあ大學教授ノくらゝ(J. B. Clark)デアル。氏ハ一八八八年五月ニ公ニシタル小冊子ニ於イテ、初メテ純資本(pure capital)ト資本財(capital-goods)トヲ區別スルコトニ依リ、資本ノ本質ヲ闡明セント企テタ者デアル。猶氏ハ其ヨリ滿一ケ年後ニ『分配論』<sup>(5)</sup>ヲ公ニシテ居ルガ、此新著デハ『純資本』ト云フ言葉ガ單ニ『資本』ト云フ言葉ニ代ヘラレテアル。今此ノ後ノ著述ニ依リ、氏ノ所謂資本ト資本財トノ區別ニ就キ、氏ノ意見ノ大體ヲ述ブレバ次ノ如クデアル。

一、資本ノ永續性。『事業ヲシテ失敗ニ歸セシメザル限り、ソレ(資本)ハ持續スルシ、又持續セシメ子バ爲ラメ。』之ニ反シ『資本財ニ至ツテハ、事業ヲシテ失敗ニ歸セシメザル限り、當ニ漸次破毀サルルノミナラズ、破毀サレナケレバ爲ラヌ。サウシテ資本財ノ此ノ如ク破毀セラルルハ即チ資本ヲシテ持續セシムル所以デアル』<sup>(6)</sup>

(3) Adam Smith, *Wealth of Nations*, (1776) vol. I, p. 330.

(4) J. B. Clark, *Capital and its Earning*, (a monograph of the American Economic Association), 1888.

(5) *Ibid.*, The Distribution of Wealth, 1900. (Chapter IX, Capital and capital-goods contrasted,) pp. 116-140.

(6) *Ibid.* p. 117.

## 二、資本ノ移動性。

『資本ハ完全ニ移動性ヲ有スル、併シ資本財ハナカクサウテ無イ。』例ヘバ當テに『イー・いんぐらん』ノ抽籤票ニ投下サレテ居ル資本ハ、今テハ或範圍ニ於イテ、内地ノ棉花工業ニ使用サレテ居ル。併シ船舶ノモノハ決シテ紡績機械トシテ使用サレテ居ル譯テハ無イ。

## 三、資本ノ抽象性。

『資本ナルモノハ生産用具カラ成リ立ツ、ソウシテ是等ノ生産用具ハ常ニ具體的且有形的ノモノデアル。』併シ吾人ガ資本ソノモノニ就イテ考ヘ又ハ話ス時ハ、常ニ之ヲ一定ノ貨幣價值ニテ抽象的ニ言ヒ表ハスモノデアル。此點ナ明カニスルコトハ、『生産財ニ關スル學問上ノ一問題ニ對スル鍵』ヲ握ル所以デアル。蓋シ吾人ガ事業家ニ向ツテ、What is your capital? (アナタノ資本ハ) ト尋ネルナラバ、彼ハ之ニ答ヘテ It is the hundred thousand dollars that I have invested in my shop. (私ノ店ニ數拾萬圓下ロシテ居マス) ト云フテ有ラリ。此ノ如ク何拾萬圓ト云フ金額デ言ヒ表ハサレテ居ルモノ即チ資本デアル。勿論其資本ハ具體的且有形的ナル生産財ニ下ロサレテ居ルカラ、一ノ抽象物デハナクテ失張り一ノ有形的存在ヲ有スルモノデアル。(it is not an abstraction, but a material entity.) 事業家ハ其資本ガ具體的且有形的ノモノニ放下サレテ居ルト云フコトハ、能ク心得テ居ル。ケレドモ其ニ就イテ考ヘ又ハ話ス時ハ、本能的ニ抽象的表現ノ手段ニ依ルモノデアル。資本ハ此ノ如ク貨幣價值ニテ表示サレ居ルモノナルガ故ニ、利子ハ歩合ヲ以テ言ヒ表ハサレルコトニ爲ル。ゲニ資本ノ利子ガ常ニ歩合ヲ以テ言ヒ表ハサレテ居ルハ、資本ソノモノ及ビ其ノ年々ノ儲ケガ共ニ價值ノ單位ヲ以テ表ハサレ居ルガ爲デアル。之ニ反シ、資本財タル建築物、機械、船舶等ハ年々所得トシテ其ノモノ自身ノ端數ヲ生ミ出スト云フコトハ無イ。併シ是等ノ建築物ヲ機械<sup>ニ具體サレテ</sup>船舶ニ具體サレテ居ル資本ハ、年々其何百萬分ノ一カツツ殖エテ行クノデアル。此ノ如クニシテ資本ニハ利子 (interest) ナ生ズルケレドモ、個々ノ具體的<sup>ニ具體サレテ</sup>生産財ニハ利子ヲ生ズルコトナク、只賃料 (rent) ナ生ズルニ止ル次第デアル。

## 四、資本ノ無期性。

資本財ハ使用サルルニ從ツテ破壊サレテ行クカラ、其生命ニハ限リガアル。』之ニ反シ、資本ニハ命數ト云フモノガ無イ。ソハ絶エズ働イテ居ルカラシテ、日トカ月トカ年トカ云フヤウナ勝手ナ區分ヲ用ヒヌ限リ、其ノ永續的ノ生命ヲ分ツベキ途ハ無イ。』

(7) p. 118.  
(1) p. 116.  
(2) p. 118.  
(3) p. 119.  
(4) p. 123.  
(5) p. 128.



## 五、節欲ト資本。

『節欲ヲ必要トスルハ新タナル資本ノ出來ル場合デアル。』『節欲ハ新タナル資本ヲ作り出ス。即チ吾  
再ノ貨幣所得中、消費財ヲ得ル爲ニ使用サルベキ部分ヲ割キ、之ヲ生産用具ヲ得ル爲ニ振リ向ケルノガ即チ節欲デアル。』  
併シ節約ニ依リ一旦或資本ガ出來タナラバ、其ヨリ以後ハ節欲ノ必要ハ無イ。例ヘバ森林ヲ作ル爲ニ一定ノ山ニ毎年一列宛  
苗木ヲ植エルトスル。サウシテ其苗木ガ伐採期ニ達スル迄ニハ假ニ五十年ヲ要スルトスルナラバ、其五十年間ハ毎年節約ニ  
依リテ一列宛ノ苗木ヲ植エテ行カネバ爲ラス。併シ五十年ヲ經過シテ既ニ合計五十列ノ樹木ガ植エ付ケラレタナラバ、其ヨ  
リ以後ハ最早節欲ノ必要ハナクナルノデ、即チ毎年一列宛伐採スルト同時ニ、其所得ノ中カラ苗木ヲ買フテ、伐採シタ後ハ  
次ギタタニ苗木ヲ植エテサヘ行ケバ、其森林ハ永久ニ亘ツテ一定ノ木材ヲ毎年產出スルコトニ爲ルノデアル。

以上掲ゲタルくらゐノ議論ハ、前ニモ一言シタル如ク、資本ニ關スル概念改造ノ新氣運ニ向  
ジテ第一鞭ヲ着ケタルモノニテ、前後ヲ通ジ氏ノ議論ニハ尊重スベキ幾多ノ分子ヲ包含シ居レ  
ドモ、其中ニ於イテモ殊ニ注意スベキコトハ、氏ガ資本ノ第三ノ特性トシテ掲ゲタル其抽象性デ  
アル。資本ハ常ニ貨幣價值ヲ以テ言ヒ表ハサレ居ルモノナリト云フ氏ガ此着眼ハ、百四十餘年前  
ニてゆるびーガ資本ヲ以テ蓄積サレタル價值 (valeurs accumulées) ナリト爲セシ思想ト遙ニ相通  
スルモノデ、正ニ資本ノ骨髓ニ觸レタル觀察デアル。只惜イ哉、氏モ亦てゆるびート同ジク、放  
下サレタル資本ヲバ依然トシテ資本ト看做サントセルガ爲メ、——恰モ砂糖水ヲモ猶砂糖ナリ  
ト説明セントスル者ガ經驗スベキヤウナル——種々ノ困難ヲ感ゼザルヲ得ザリシモノニテ、是  
ガ爲メ氏ノ議論ニハ徹底セザル所ガ頗ル多イ。例ヘバ余ノ既ニ前號ノ拙稿ニ於イテ指摘セシ如  
ク、<sup>(6)</sup>氏ハ資本ヲ以テ或ハ抽象的ノモノナルガ如クニ説クカト思ヘバ、又タ之ヲ具體的ノモノナリ  
ト述べ居ル所モアリテ、前後ヲ通ジテ之ヲ觀察センカ、如何ニモ其本體ヲ掴ミ感ヘル様ノ覆フベ

(6) 經濟論叢第三卷一六頁。猶後ニモ之ヲ説ク。

カラザルモノアルガ如キハ、畢竟是ガ爲デアル。

併シくらゝノ意見ニ曖昧ニシテ且矛盾シタル點ノアルハ、余ヲシテ言ハシムレバ、彼ノ意見ガ退歩ノ方向ニ在ル爲ニハ非ズシテ、却テ進歩ノ方向ニ在ルガ爲デアル。只氏ハ從來ノ傳説ヲバ充分ニ抜ケ切ラズ、既ニ一腳ヲ資本ノ眞概念ニ突キ込ミナガラ、猶他ノ一腳ヲバ依然トシテ舊來ノ傳説ニ没却シ居ルガ爲ニ、幾多ノ曖昧矛盾ヨリ離脱シ能ハスノデアル。

『資本トハ過去ノ生物ニシテ生産又ハ營利ノ用ニ供セラルルモノナリ』ナド云フ普通ノ説明ニハ間違ノ程度ガ甚シイダケ其レダケ、曖昧ノ點モ矛盾ノ點モ無イ。今くらゝノガ、此ノ如キ從來ノ傳説ヲ維持シツツアル學者ノ爲ニ、其說ノ曖昧矛盾ヲ攻撃セラルルモ、誠ニ致方ナキ次第デアル。前ニモ一言シタ如ク、くらゝノハ既に資本ト資本財トヲ區別シテ居ルノデアル。故ニ百尺竿頭一步ヲ進メテ、資本財ハ則チ資本ニ非ズト斷言シ、資本財ハ具體的有形的ノモノナレドモ、資本ハ抽象的無形的ノモノナリト説明シ去ルナラバ、何等ノ曖昧モ矛盾モ無クナルノデアル。然ルニ氏ハ一旦資本ト資本財トヲ區別シナガラ、資本ガ現ニ放下サレ具體化サレテ資本財トナリ居ル場合ニモ、猶ソノ資本財ヲ以テ資本ナリト説明スルコトニ依リ、飽クマデ從來ノ傳説ト離レザラント努メタルガ故ニ、如何ニシテモ曖昧ト矛盾ヲ避ケ得ザリシモノデアル。

### 三、くらゝ (下)

ばにむ・ばえるくハ近時ノ利子説ニ一大時期ヲ劃シタ大家デアルガ、併シ氏ノ資本ノ概念ハ、

過去ノ生産物ニシテ生産又ハ營利ノ手段ニ供ゼラルルモノナリテフふゐたノ所謂十八世紀の概念タルニ過ギザルモノデアル。而カモ氏ガ、資本ノ概念ニ就イテくらゝト論爭スルヤ、論鋒銳利、人ヲシテ勝ハばえむ・ばえるくニ在リト思ハシムル所以ノモノハ、決シテ氏ノ概念ノ正シキガ爲ニ非ズシテ、全クくらゝノ概念ニ徹底セザル所アルガ爲デアル。

試ニくらゝノ概念ニ對スルばえむ・ばえるくノ批評ヲ見ンカ、其一斑ハ次ノ如シ。(1)

He (Clark) takes a vast amount of trouble to make it plausible that his true capital is not an abstraction, is "a material entity." This proposition he develops with constant variations of language, which makes upon me the impression that they are as full of inconsistencies as of obscure mystical rhetoric.(2)

くらゝハ其ノ所謂純資本ナルモノガ『抽象物ニ非ズシテ有形物ナルコトヲ説明スル爲ニ恐ロシク骨折ツテ居ル。氏ハ此命題ヲ立證センガ爲ニ色々言葉ヲ換ヘテ説明シテ居ルガ、其ハ余ニ向ツテ、矛盾ト曖昧ト思議ナル言葉使ヒトニ充テテ居ルト云フ印象ヲ與ヘルニ過ギナイ』ト云フノデアル。サウシテ氏ハ其見本ヲ示サウト云ツテ、進ンデ次ノ如ク記述シテ居ル。

『先ツ冒頭ニハ、資本ハ「物質的存在」("material existence")ヲ有スルモンデ、即チ常ニ「具體的且有形的」("concrete and material")ノモノデアルト明白ニ記述サレテアル。資本ハ具體的且有形的ナル生産手段カラ「成リ立ツ」("consists")ト云フノデアル。是等ノ命題ハ決シテ間違ツテハ居ラス。——(余ヲシテ批評セシムレバ、是等ノ命題コソ間違ツテ居ルノデアル。河上附註。)——併シ是等ノ命題ガ、資本ナルモノハ具體的且有形的ナル生産手段トハ違ツタ或物デアルト云フ概念ト、同時ニ主張サルルニ至ツテハ慫力ザルヲ得ヌ。次ノ頁ヲ見ルト、是等二個ノ對立セル思想ノ間ニ橋ヲ架ケンガ爲ニ、——(一方チ棄テタラバ此ノ如キ無理ナ且無用ナ橋ヲ架ケル必要ハ無いノデアルガ、ソコガくらゝノ未ダ徹底セザル點デアル。河上附註。)——資本財ハ消滅性ヲ有シテ居ルケレドモ、資本ハ持續性ヲ有シテ居ルト云フ例ノ説明ガシテアル。——(前掲くらゝノ

(1) Böhm-Bawerk, "Capital and interest once more"— *Quarterly Journal of Economics*, vol. XXI (Nov. 1906.), p. 1, ff.  
(2) *Ibid*, p. 5.

ノ意見ノ抄録中、第一ノ資本ノ永續性ト題スル項ヲ参照サレタシ。河上附註。——サウシテ其カラ、具體性ト抽象性トノ差ニ就イテ次ノ如キ説明ガシテアル。——(委細ハ前掲くらゝノ意見ノ抄録中、第三ノ資本ノ抽象性ト題スル項ヲ参照サレタシ。此處敷衍省略ス。河上附註。——)「若シ一定額ノ價值又ハ一定額ノ富(即チ資本)ガ、之ヲ embody シテ居ル所ノ具體的ノ物カラ離シテ考ヘラルルナラバ、其ハ一ノ抽象物デアル、併シ若シ其物が現ニ具體的ノ物ニ下ロサレテ居ル(embodyed)トシテ考ヘラルルナラバ、其ハ抽象物デハ無クテ一ノ有形的存在ヲ有スルモノデアル。……事業家ハ其資本ガ具體的且有形的ノモノニ放下サレテ居ルト云フコトハ、能ク心得テ居ル。クレドモ其ニ就イテ考ヘ又ハ話ス時ハ、本能的ニ抽象的表現ノ手段ニ依ルモノデアル。」コウ云フ説明ナノデアル。』<sup>(3)</sup>

「*かくて教授ハ the idea that capital ever lives in a disembodied state (資本ガ一寸デモ具體サレザル狀態ニ於イテ存在スルコトガアルト云フ考)ヲ有ツテバ居ラヌト云フコトヲ頗リニ警戒シ居ル。*(中略)。*ソコデ氏ハ元ト「純資本」ト云フ言葉ヲ使ツテ居タクレドモ、今デハ單ニ資本ト謂ツテ居ル。ソレハ「純」ト言フ語ハ、資本ガ例ヘバ道具ト云フガ如キ具體的ノ物體ニ合體シテハ居ナイモノデアルト云フ誤解ヲ招ク虞アルガ爲デアルト云フノデアルガ、而カモ氏ハ其ニ引キ續イデ、「資本ナルモノハ、概念ソノモノトシテハ、矢張り其ノ合體シ居ル所ノ具體的ノ物體カラ離サレテ考ヘラルルモノデアル。即チ吾々ハ、資本ガ永續シテ居ルトカ、又ハ資本ガ或產業カラ他ノ產業ヘ移ルトカ云フ。併シ是等ノ場合ニ、道具ソノモノガ永續スル譯デモナク、又其等ノ道具ガ或場所カラ他ノ場所ニ移動スル譯デモ無イ。永續シタリ移動シタリスルコトノ出來ルノハ、元本タル金額即チ純資本ナノデアル。生産要具ハ段々消滅シテ新ラシイ生産要具ガ次第ニ交替スルノデアルケレドモ、而カモ吾々ハ資本ガ持續シテ居ルト云フ、ソウシテ此場合ニ事實持續的ノ存在ヲ有シテ居ルモノハ單ニ抽象物ニ過ギヌノデアル。」(it is only an abstraction that has literally a continuous existence)其抽象物ヲ具體的ニ合體シテ居ル物ハ勿論一時的ノ存在ヲ保ツダケノモノデアル。斯カル意味ニ於イデ、純資本ナルモノハ決シテ客觀的ニ抽象物トシテ存在シテ居ル譯デハ無イガ、猶抽象的ニ資本ト名ケラルルノデアル」ト論ジテ居ル。』<sup>(4)</sup>*

(3) *Ibid.*, pp. 10, 11.(4) *Ibid.*; pp. 11, 12.

ばえむ・ばえるくハ此ノ如クくらくノ議論ノ要點ヲ引用シタ後デ、次ノ如ク言ツテ居ル。

Let the unprejudiced reader judge for himself. What glaring contradiction is there, between saying that abiding true capital is "concrete and material," is a "concrete thing", "not an abstraction, but a material entity," and the final admission in so many words that "yet it is only an abstraction that has literally a continuous existence," and that perishable capital goods are embodiments of the abstraction? What a quantity of flowery expressions, of new words and new figures, which repeatedly try to build the bridge between the abstract and the concrete; and how, through all these efforts, we see clearly that this bridge consists of no more substantial material than words and figures.

(5)

即チくらくハ、一方デハ資本ヲバ具體的ノモノダト言ヒナガラ 他方デハ又之ヲ抽象的ノモノダト言ヒ、サウシテ此具體ト抽象トノ間ニ橋ヲ架ケンガ爲ニ色々ナ言葉ノ花ヲ使ツテ居ルケレドモ、如何ニシテモ言葉ノ橋シカ架カラスト云フノガ、ばえむ・ばえるくノ批評ナノデアル。而シテ公平ニ言ヘバ斯カル批評ハ正ニくらくノ甘受セザルベカラザル所デアル。

前ニモ言フ如ク、元來くらくガ資本ト資本財トノ間ニ無用ノ橋ヲ架ケントスルガ混雜ノ元デアル。何萬圓何十萬圓ト云フ資本ガ工場ヤ機械ヤ原料ニ放下サレタナラバ、其ノ放下サレタ利那ニ何萬圓何十萬圓ニ値スル資本ハ無クナツテ、其ノ代リニ工場トカ機械トカ原料トカ云フ資本財ガ出テ來ルノデアル。然ルニ其資本財ヲ猶資本トナサントセルガ爲ニ、如何にくらくノオノ美ヲ以テシテモ、到底曖昧矛盾ヲ免レ能ハザルニ至ルノデアル。氏ハ曰ク

The capital of society has no existence till it is in shapes in which entrepreneurs use it. Till it is raw materials

and tools for the manufacturer, merchandise for the retailer, vehicles for the carrier, etc., capital has no existence at all.<sup>(5)</sup>

即チ資本ハ『製造業者ニ向ツテハ原料及ビ道具トナリ、小賣業者ニ向ツテハ商品トナリ、運送業者ニ向ツテ車輛トナル迄ハ、資本トシテ全ク存在セヌモノデアル』ト云フノデアルガ、之ガ根本ノ誤謬ニテ、眞相ハ其ト逆ニ、資本ハ原料及ビ道具トナリ、或ハ商品又ハ車輛トナレル其剝削ニ、資本タル性質ヲ失フテ資本財トナルノデアル。ソコデ資本ハ抽象性ノモノデアルガ、資本財ハ具體的ノモノト謂ツテ差支ナイノデアル。然ルニくらゐハ資本ト資本財トヲ分チナガラ、猶資本財ヲ以テ資本トナサントセルガ爲ニ、前ニ言フ如ク或ハ之ヲ以テ抽象的ノモノナリト言フカト思ヘバ、又之ヲ以テ具體的ノモノナリト言フガ如ク、徹頭徹尾曖昧ナル態度ヲ維持セザルヲ得ヌノデアル。之ヲ譬フレバ、放下サレタル資本ヲ以テ猶資本ナリト爲スハ、沈没セル船ヲ以テ猶船ナリト爲スガ如キモノデアル。勿論沈没セシ船ノ復ビ引揚ゲラレ得ルガ如ク、一旦放下サレシ資本モ多クノ場合ニハ之ヲ回收スルコトヲ得ル。乍併、如何ニ引揚ゲラレ得ル望アレバトテ、沈没シ居ル船ハ、嚴格ニ言ハバ、決シテ船ニ非ズ。其ノ引揚ゲラレテ復ビ航行ノ用ニ供セラレ得ルニ至ツテ、始メテ船トシテノ資格ヲ恢復スルニ至ルノデアル。之ト同ジク、放下サレ居ル資本ハ、如何ニ回收ノ見込アリトモ、其ノ放下サレ居ル限リニ於イテハ資本ニ非ズ。回收サルルヲ俟ツテ始メテ再ビ資本タルノ性質ヲ有スルニ至ルノデアル。其關係、更ニ之ヲ譬フレバ、砂糖ハ砂糖黍ヨリ製出サレ、氷砂糖ハ又砂糖ヲ用ヒテ造ラルト雖モ、嚴格ニ言ハバ、砂糖黍モ、氷砂糖モ、砂糖ト稱スベキモ

ノニ非ザルガ如クデアル。是レ余ガ資本ヲ定義シテ特ニ『浮キ上リタル』一般の購賣ヲ有スル剩餘ノ財産ト爲ス所以デアツテ、茲ニ浮キ上リタルト言フハ、沈没シタル船ヲ以テ其ノマ、ニハ之ヲ船ト稱セズ、糖分ヲ含有スル黍ヲ以テ直チニ之ヲ砂糖ト稱セザランガ爲デアル。

くらゝハ又資本ハ完全ニ絕對ニ移動性ヲ有スト主張シテ居ルガ(前掲氏ノ意見ノ抄録ノ第二項參照)、之モ余ノ主張スルガ如ク資本ヲ以テ一般の融通性ヲ有スル交換財(貨幣及ビ貨幣ノ代用物)ノミヨリ成リ立ツモノトセンカ、其ノ完全ニ絕對ニ融通性ヲ有スルハ勿論ノコトデアル。畢竟一般の購買力ヲ有スルガ故ニ、資本ハ何時ニテモ之ヲ欲スルガママノモノニ交換シ得ルノデアル。而カモくらゝハ一旦資本ト資本財トヲ區別シナガラ、猶資本財ヲ以テ資本ヲ embody シ居ルモノト見、資本財ヲ離レテ資本ハ存在シ得ズト爲セルガ故ニ、<sup>(7)</sup>ばえむ・ばえるくら゠ガ資本ヲ以テ完全ニ absolute mobility is, to put it plainly, perfectly and absolutely false (くら゠ガ資本ヲ以テ完全ニ且絕對ニ融通性ヲ有スト言ヘルハ、卒直ニ言ヘバ、完全ニ且絕對ニ誤謬デアル。)トノ非難ヲ敢テセシムルニ至ル次第デアル。

## 訂 正

前號ノ本誌ニ載セタル拙稿『資本ノ概念』第一頁ニまくれをどノ名ヲ掲ゲシガ、右ハ經濟學者ノ Henry Dunning Mackod ヲ指セシモノニテ、其發音ヲ假名ニテ表ハサバ、まくらうど又ハまくろうどトスベキモノノヤウデアル。

(7) Böhm-Bawerk, Ibid, p. 18.

試ニ Lippincott 會社ノ Universal Pronouncing Dictionary of Biography and Mythology (By J. Thomas.) 1901. ヲ見ルニ、

Macleod (Fiona).....

Macleod, mak-low'd, (Henry Dunning).....

ト爲シテ居ルカラシテ、前出ノ Fiona Macleod ノ姓ハまくれをミ、後出ノ H. D. Macleod ノ方ハ之ヲまくらうミト讀ムベキガ如クデアル。

又 Collins ノ Authors' and Printers' Dictionary, 1909. ヲ見ルト、只一行ダケ Macleod ト云フ姓ガ出テ居ルダケデ、ソレニハ次ノ如ク書イテアル。

Macleod, pron, mak-loud'.

之デ見ルト、Macleod ハ一般ニまくらうミト發音スベキヤウデアル。\*

而シテ Century Dictionary ニハ Alexander Macleod ノ所ハ

Macleod (mak-loud'), Alexander.

トシテアツテ、其後ニ出テ居ル H. D. Macleod ノ所ニハ別ニ發音ガ注意シテ無イケレドモ、之ハ無論前例ニ倣フト云フ趣旨デアラウ。

以上ノ辭書類ヲ参照スルニ、要スルニ Macleod ハまくれをミト讀ム場合トまくらうミト又ハまくらうミト讀ム場合トノ二ツアルガ、經濟學者ノ H. D. Macleod ハまくらうミト又ハまくらうミト讀ムベキガ如クデアル。仍テ前號ノ第一頁ニまくれをミト爲シ置キシヲ茲ニ訂正シテまくらうミトスル。\*\*\*

猶右ノ訂正ヲ爲スニ至リシハ、愛媛縣八幡濱商業學校長土居寧世君ガ余ニ私信ヲ以テ注意サレタルガ爲デアル。仍テ茲ニ同君ニ對シ謹ンデ感謝ノ意ヲ表スル。

\* Manners and Rules of Good Society, 1910. ニモ只一行ダケ出テ居テ、ソレニハ McLoud トシテアル。

\*\* Meyer, Grosses Konversations=Lexikon, 1906. ニハ Macleod (spr. maklaud), Henry Dunning. トシテアル。之ヲ獨逸讀ミニスレバまくらうミトスベキヤウデアルガ、果シテ如何アラソ。